1100本のろうそくに火が灯り、中央には「願い」の文字も

コロナ収束願い1年半

岡山県内介護施設　キャンドルリレー本年度で終了

新型コロナの収束を願い、岡山県内の介護施設が2020年夏からリレー形式で実施している「願いのキャンドルナイトリレー」が本年度で終了する。1年半でおよそ20施設が参加し、利用者や職員にひとときの安らぎや明日への希望を届けてきた。

利用者の集団感染や重症化が危惧される介護施設では、施設行事や職員のプライベートの外出など多くの制限を余儀なくされてきた。

「このような状況から以前の生活に戻れるように」と、岡山県倉敷市の特別養護老人ホーム「ますみ荘」（社会福祉法人ますみ会）が20年8月、キャンドルナイトを企画したのが発端だ。

近隣のろうそくメーカーの協力を受け、職員らが施設の駐車場に1100本のろうそくに火をともした。風よけに使用した紙コップやプラスチックカップには利用者や職員がコロナ収束への思いをしたためた。

この取り組みに着目した同県老人福祉施設協議会が活動の輪を広げようと臨時の補助事業に採択。希望する介護施設がろうそくを引き継ぐなどしてリレー形式で実施してきた。活動が終了する今月末までの1年半で、岡山市や総社市、勝央町など11市町の計20施設で延べ21回実施される。

県老施協の21世紀委員会長でますみ荘施設長の小森弥彦氏は「利用者や職員のホッとする表情が印象に残っている。中には涙する職員もいた。コロナ禍で緊張状態が続く中、心休まる瞬間だった。（キャンドルナイトを）実施して良かった」と話した。参加した他施設の関係者からも「心が洗われた」などと好評だったという。

来年度は同県老施協による事業化はされないが、キャンドルナイトの実施を望む施設にはノウハウを提供していく方針だ。（市川傑）

電動車いす　高齢者の踏切事故　免許証返上で

電動車いすに乗った高齢者の踏切事故が相次いだ。2021年8月から12月までに3件の事故があり、2人が死亡した。運転免許証の返上で電動車いすが便利な移動手段として利用する高齢者が増加していることも一因のようで、安全対策が課題になっている。

昨年12月9日に大阪府東大阪市の近鉄奈良線で、69歳の男性が普通電車と衝突して死亡。8月には香川県観音寺市のJR予讃線で75歳の女性が特急列車にはねられて亡くなったほか、11月には宮崎県門川町のJR日豊線で踏切内に立ち往生した80代の女性が、あわやのところで救出されるという事故も起きている。

独立行政法人「製品評価技術基盤機構（NITE）」による電動車いすに乗った高齢者の踏切内での事故は11～20年度の10年間に、兵庫や愛知、福岡、山梨県などで13件発生。60～90代の9人が亡くなっている。